

Foreword

巻頭言

社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)

会長就任にあたって



堀場 厚

Atsushi Horiba

堀場 厚

株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼社長

私は、2007年5月17日に開催された社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)の年次総会にて選任され、JAIMA会長に就任することとなった。

JAIMAは日本の分析機器メーカー及びその販売会社約200社からなる団体で、1960年に設立され、47年の歴史を誇っている。堀場製作所は、JAIMA創設以来の会員で、堀場雅夫最高顧問が1973年より25年間にわたって副会長として活躍し、その後を引き継いで私も副会長を務めてきた。

HORIBAは売り上げ数兆円を記録するようなメガ企業ではないが、創業以来、常にチャレンジングに事業を展開し自動車排ガス測定分野で世界一となり、以来、半導体、科学分析、環境測定、医用機器などの分野で国際的なM&Aを含む積極的策をとって成長してきたと自負している。製品の50%以上を海外で生産、販売し、日本人以外の社員が60%近くを占める日本発の国際企業として、これからも王道を歩めるよう努力していきたい。

このように、今後一層のグローバル化が進む分析機器業界において、HORIBAの地位が相対的に向上し、その責務が大きくなっている状況下で、JAIMAの会長に推薦されたことは大変な栄誉であると感じ、より大きなスケールでリーダーシップをとれるように努力したいと思う。

就任にあたっては、全力を傾注して積極的に分析機器業界の認知度向上に努めたい。あらゆる産業分野での技術開発において、まず必要とされる先端技術は計測・分析技術であり、プロセス制御や品質管理の面でも、各産業にとって必要不可欠な技術となっている。今後、関係諸官庁や学界とも連携を強めて、分析機器業界の地位向上と競争力強化のために尽くしていく所存である。

会長就任に際しての基本方針として、以下の4項目を実践していきたい。

1. JAIMAの活動が真に会員企業に貢献するように、諸事業を全体的に整理し、各委員会事業を有機的に連携させる。また、活動成果を会員企業に還元する仕組み作りを実行する。
2. ALSSA¹やGAMBICA²、日本分析化学会を含む国内外の関連諸団体、学会、あるいは関係省庁との連携をより一層強化して、JAIMAの国際的なプレゼンス向上と影響力の強化を図る。
3. 活動をより効率よく実行していくために、JAIMAの情報インフラを整備し、JAIMAの情報発信をより一層活発化させる。
4. JAIMA最大の事業である分析展を、永続的に発展させるための将来像を検討し、国内外の展示会や国際会議等との連携を強め、より意義深い展示会にすべく発展させる。

これらの方針を実現し、JAIMAの各会員企業に貢献することを目標に、“オープン&フェア”と“パワー&スピード”のスピリットで責任を全うしていく所存である。

分析機器業界のアクティビティを高めることがHORIBAの成長にも貢献し、ひいては、エネルギー、環境、健康、安全などの社会の利益にも繋がるという点をご理解いただき、ご支援ご協力賜るよう、切にお願いする。

*1: Analytical & Life Science Systems Association (米国分析機器・ライフサイエンス工業会)。

*2: Trade Association for Instrumentation, Control, Automation and Laboratory Technology in the UK (英国科学機器協会)。